

トンネル工で労務単価の割増を考慮する場合の端数処理等について

神奈川県県土整備局の積算システムでは、トンネル工の労務単価割増に対応するため、以下のDで始まる独自施工単価コードは、WBで始まる参照施工単価コードに、割増の補正係数を入力条件として追加して、この補正係数を労務単価にかけています。補正後の労務単価の端数処理は円止め（円未満切捨て）としていますので、ご注意ください。

なお、これ以外の労務単価の端数処理の方法は、「積算参考資料（土木工事編）」（令和6年7月1日改訂版）第2章 工事費の積算 2-4 数値基準及び端数処理 （1）県工事設計積算システムを使用した積算の数値基準及び端数処理 3）労務単価の補正を参照してください。

【独自施工単価コード】

編名	章名	施工単価コード		独自施工単価名称	追加入力条件	補正後労務単価	摘要
		独自	参照				
道路	トンネル工	D450250	WB450250	仮設備保守（掘削作業～支保作業）	普通作業員 補正係数(実数) 設備機械工 補正係数(実数) 電工 補正係数(実数)	円未満切り捨て	
		WB450250					
道路	トンネル工	D450252	WB450252	仮設備保守（掘削作業～支保作業）	普通作業員 補正係数(実数) 設備機械工 補正係数(実数) 電工 補正係数(実数)	円未満切り捨て	
		WB450252					
道路	トンネル工	D450260	WB450260	空気圧縮機設備運転	特殊作業員 補正係数(実数)	円未満切り捨て	
		WB450260					
道路	トンネル工	D452010	WB452010	掘削等掘削吹付、ロックボルト、金網、鋼製支保	トンネル世話役 補正係数(実数) トンネル特殊工 補正係数(実数) トンネル作業員 補正係数(実数)	円未満切り捨て	
		WB452010					
道路	トンネル工	D452110A*)	WB452110	掘削等掘削吹付、ロックボルト、金網、鋼製支保（鏡吹付無・一括練混ぜ）	トンネル世話役 補正係数(実数) トンネル特殊工 補正係数(実数) トンネル作業員 補正係数(実数)	円未満切り捨て	R 6.7 基準から追加
		WB452110					
道路	トンネル工	D452110B*)	WB452110	掘削等掘削吹付、ロックボルト、金網、鋼製支保（鏡吹付有・一括練混ぜ）	トンネル世話役 補正係数(実数) トンネル特殊工 補正係数(実数) トンネル作業員 補正係数(実数)	円未満切り捨て	R 6.7 基準から追加
		WB452110					
道路	トンネル工	D452510	WB452510	掘削等掘削吹付、ロックボルト、金網、鋼製支保	トンネル世話役 補正係数(実数) トンネル特殊工 補正係数(実数) トンネル作業員 補正係数(実数)	円未満切り捨て	
		WB452510					

*) D452110A は、参照施工単価コードの入力条件である鏡吹付工施工を無、吹付プラント設備を、一括練混ぜに固定しています。D452110B は、参照施工単価コードの入力条件である鏡吹付工施工を有、吹付プラント設備を、一括練混ぜに固定しています。

○トンネル世話役の計算例

労務単価：33,500円

トンネル世話役 補正係数(実数)：1.057

とすると、

補正後労務単価 = 33,500 × 1.057 = 35,409.5 ⇒ 35,409円（円未満切り捨て）

（単価、補正係数は架空のものです。）

注) 週休2日補正有の場合は週休2日補正係数をかかけた段階で10円未満切り捨てた後、上表の追加入力条件の補正係数をかけて円未満切り捨てとなります。

前記計算例の場合、週休2日補正係数を1.05とすると、
補正後労務単価 = $33,500 \times 1.05 \times 1.057 = 35,170$ (10円未満切り捨て) $\times 1.057 = 37,174.69$
 $\Rightarrow 37,174$ 円 (円未満切り捨て)